

□□

□□

コロナ禍の中、電子出版が再び注目されています。
日本自費出版ネットワークの会員からも電子出版の問い合わせが増えたという報告が複数ありました。そこで、自費出版の電子書籍化と電子出版流通を学ぶ講座を開きます。

講師は、日本の電子出版制作と流通の最前線で活躍している長谷川智信氏です。「特に『電子出版』の流通させるための方法については、具体的にどの会社の担当者にたのめば、どのような流通にのせられるか、等々をご紹介したい」という実践的な話もしていただける予定です。

今後電子出版を行いたい方や電子出版で悩みを抱えている方に最適の講座です。
講座はリアルとオンラインの両方で行いますので選んでください。
申込書は近日中に送信しますが、早く申し込みたい方は、社名、参加者名、所属業界団体名、リアルかオンラインの希望を記して、自費出版アドバイザーの会事務局の宮川さんまでメールにてお申し込み願います。

宮川さんのメール：miyagawa@bun-shin.co.jp

テーマ：「自費出版を電子出版する方法 デジタルハイブリッド出版の可能性」（仮）
講師：（一社）電子出版制作・流通協議会 長谷川智信氏
日時：11月17日（水）15：00～16：40
会場：ジャグラ会議室（東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル8階）

※会場での参加と、オンライン配信。その後10日間程度のアーカイブ視聴。
参加費：日本自費出版ネットワーク会員2,000円、
ジャグラ会員：2,500円、その他の方：3,000円

主な内容：・電子出版の現況、潮流
・自費出版を電子出版物として流通に乗せるには
・ハイブリッドデジタル出版
（オフセット+デジタルショートラン+電子出版+POD出版）の可能性

□□

□□

2. お知らせ … コロナと応募数増加のため文化賞
1次2次選考委員の増員が課題に

□□

□□

第24回日本自費出版文化賞の選考が最終段階に入り、予定通り9/8にニッケイビルにて受賞者発表会が行われます。ただ、今回の選考で問題になったのは、コロナの影響もあって、2次選考会に参加できた選考委員が少なく、1人しかいない部門があったことでした。

1次選考は平均して7人ほどの委員が自宅で◎や○をつけて推薦作品を2次選考会に上げるわけですが、集まった各部門1次通過の約50作品の中から10作品を選ぶのが2次選考会です。

今回その2次選考に1人しか参加できなかった部門があり、問題になったのです。

解決策として出ているものは、

- ①選考委員を増やすこと
- ②1次選考委員は丁寧な推薦理由を記すこと

③オンライン選考の方法を検討することなどです。

①については、ここ数年、2年ごとに文化賞受賞者の方々に選考委員の募集を行っていて、今年秋に募集します。

②は、2次選考に参加できなくても、しっかりした推薦理由が書いてあれば判断ができるということです。

③は、工夫すればオンラインで選考ができそうですので、方法を考えたいと思います。

応募数も増えてきましたので、選考委員の増員が求められています。ネットワーク会員の皆さんの中で、1次2次選考委員の希望者や推薦者がいれば、希望の部門を記していただき、メールかFAXでご事務局までご一報願います。

メール : pp@japan. email. ne. jp FAX : 03-5623-5473

□□ _____ □□

4. 自費出版事情 … ～会員便り～ No.45

□□ _____ □□

株式会社 登プリント社
岩下 登

「佐藤君」

私の親友に同業者の佐藤君がいた。お洒落な言葉をカードに書いて送ってくる。本が大好き、発想力が豊か、まわりを明るく楽しくさせる天才であった。

そんな彼がある日「ジャグラ大阪府支部に大きな本棚を置き、ジャグラ文庫として会員が制作した書籍を並べ貸し出そう、会員にとって本作りの参考になる」と言ってきた。

乗り気でない私の返事に「反対でも良いから2人でやろう」と、渋々その準備を手伝う事となった。自費出版ネットワークが立ち上がる一年ほど前の事である。

その活動が本部に伝わったのか、自費出版ネットワークの立ち上げ準備会に彼と共に参画する事になった。東京での準備会に集まった川井さんをはじめ、初対面のメンバーの意気込みと人間的魅力に引っ張られ、今日まで不良会員ではあるが応援団の片隅に身を置かせて頂いている。

私を会に引っ張った佐藤君は早くに亡くなり、会の名前を聞くたびに彼の事を思い出す。

「もう少し真面目に参加しろよ」と佐藤君に言われそうだが、彼のおかげでこの会に参加し、沢山の友に出会えた事に感謝している。

□□ _____ □□

☆ 知っとこ 岐阜 ☆ (再) その 4

□□ _____ □□

知っとこ岐阜 その4
夏の風物詩 ヤナ

今年も全国的に猛暑が続いています。
その中でもいつも最高気温の常連である岐阜。
とにかくこの時期はどこに出掛けても「暑い、暑い」という声しか
聞かないほどです。

今回は岐阜の夏の風物詩、『ヤナ』をご紹介します。
ヤナとは、鮎やマスなど川魚を獲る漁法のひとつで、平安時代前から
存在したといわれる歴史ある漁法です。
川の流れを堰き止めて、木杭や竹で組んだヤナに流れ込んだ魚を獲って
いきます。岐阜にはいくつかのヤナがありますが、網や釣りとは違って
大型の漁場を作るため、期間も地域や河川ごとによって決められています。
日本の川魚の代表格でもある鮎は岐阜県の県魚でもあり、長良川・
木曾川・揖斐川など大きな河川の多い岐阜県では昔からヤナ漁が盛ん
に行なわれてきました。

ヤナの一番の魅力は何といっても、獲れたての鮎をすぐにその場で
食べられることです。
それぞれのヤナによって食べ方はいろいろですが、定番の塩焼き、
甘露煮、雑炊など鮎づくしの食事を楽しめます。

「川のせせらぎを聞きながら、一時(いつとき)の涼を求めておいしい鮎料理
をいただく」のがヤナの醍醐味でしたが、ここ数年は涼を求めるという表現
はあてはまらなくなりました。
今年も家族でヤナに行きましたが、開店と同時に満員。
むせ返るような暑さの中、汗を流しながら鮎を食べました。
風情とはかけ離れた姿でしたが、それでも岐阜人はヤナに来て鮎を食べると
「夏だ～」と思えるから不思議です。

株式会社 岐阜文芸社 飯尾みゆき

★あとがき

登プリントの岩下社長のお話は、この自費出版ネットワークの立上げ当
時を知らない私にとっては面白いお話でした。
何かを立ち上げようとする時は、それなりのエネルギーと協力が必要
ですね。
このコロナ禍でいろいろ制限がかかり、不自由さは否めませんが、
次回のアドバイザー講座の電子出版などは、「今できること」のきっ
かけになるかもしれませんね。
楽しみです。

最後までお読みくださりありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

◆日本自費出版ネットワーク事務局
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階

